

第3学年 国語科学習指導案

平成24年12月5日（水）
東京学芸大学附属大泉小学校
第3学年ふじ組 30名
指導者 近藤 英雄

- 1 単元名 みんなで物語を読もう
学習材 「モチモチの木」(教育出版3年下, 光村図書3年下)

2 単元の目標

- 物語の面白さや登場人物の行動に興味をもち「モチモチの木」を読み進めようとする。また、進んで他の物語を読もうとする。
- 登場人物のしたことや出来事をとらえ、場面の情景や移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化などについて、叙述を基に想像しながら読む。
- ◎ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方の共通点や相違点に気付く。
- 自分と照らし合わせながら人物のしたことや気持ちを考え、根拠と理由を挙げて自分の考えを書く。
- 登場人物の人物や様子を表現したり理解したりするために必要な語句を増す。

3 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none">○ 物語の面白さに興味をもち、進んで他の斎藤隆介作品を読もうとしている。○ 登場人物(豆太やじさま)の様子や心情の変化、物語の展開に着目し、想像を広げながら物語を読もうとしている。
読む能力	<ul style="list-style-type: none">○ 叙述を基に、登場人物(豆太やじさま)の心情の変化や人物像、場面の様子などを読み取っている。◎ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方に違いのあることに気付いている。
言語についての 知識・理解・技能	<ul style="list-style-type: none">○ 心情の変化や情景描写など、登場人物(豆太やじさま)の気持ちや様子を表す言葉や文に気付いている。

4 単元について

(1) 児童の実態

これまでの文学的文章の指導では、主体的な読み手を育てるために、話し合い活動を重視してきた。これは、主体的に追究しながら読む力をつけていくためには互いの読みの交流が大切であるとの考えからである。しかし、国語科の授業に限らず、自分が感じたことや考えたことを表現することに抵抗感を持っている児童が少なからずいる。全体交流の場では一部の児童の

鋭い発言だけで授業が進行していくことがしばしば見受けられた。よって、以下のことが課題として浮かび上がった。

- ① 児童一人一人に読みの力が定着しているとは言い難く、さらなる定着が必要。
- ② 自分の考えや感じ方に自信を持ち、進んで自分の考えを発言したり、友達の考えを聞こうとしたりする態度を育むことが必要。

また、定着は不十分であるが、これまでの文学的文章における指導事項は、次のようになっている。

「消しゴムころりん」

- 物語の三大要素＜登場人物・出来事・場面（時・場所）＞
 - ▶ 場面分け…時・場所・登場人物に注目
- 物語の構成＜起承転結＞
- 作品のジャンル＜ファンタジー＞
- 読みの交流＜テーマ決め、交流＞
 - ▶ 根拠・理由・主張

「サーカスのライオン」

- 読みの観点＜物語を百倍楽しむ方法＞
 - ▶ 人物像を考える。
 - ▶ 書きぶりを味わう。（表現）
 - ▶ 主題を考える。（作者・自分）
 - ▶ 話の続きを想像する。
 - ▶ 自分とのつながりを探す。
 - ▶ 他の本とのつながりを探す。（同じジャンル、作者）
- タイトルをつける＜あらすじ＞
- 読みの交流＜テーマ決め、交流＞
 - ▶ 友達の違う読みを知る。
 - ▶ 話し合いが深まる。
 - ▶ 登場人物の気持ちや場面の様子を考えられる。
 - ▶ 話し合ったテーマ
 - ・ じんざのいないサーカスでお客さんが拍手した時の気持ち。
 - ・ じんざが火の中に入って黄金に光って消えたのはなぜか。
 - ・ 作者は何を伝えたかったのか。
- 学習感想の書き方
 - ▶ わかったこと、できるようになったこと
 - ▶ 残った疑問、さらに調べてみたいこと、知りたいこと
 - ▶ 心に残った友達の言葉
 - ▶ 自分の考えが変わったこと、深まったこと
 - ・ 根拠、理由、主張、相手意識

「わすれられないおくりもの」

○ (教育実習生による指導)

(2) 単元設定の理由

研究主題と児童の実態を踏まえ、一人一人の子供が自ら学びの主体として生きる授業を目指すため、以下のように単元を設定した。

① 自分自身の読みを持つ。

既習事項である「物語の三大要素（登場人物・出来事・場面〈時・場所〉）」・「物語の組み立て（起承転結）」・「読みの6観点（人物像を考える。書きぶりを味わう。主題を考える。話の続きを想像する。自分とのつながりを探す。他の本とのつながりを探す。）」を基に自分自身の読みをつくる。意見交流には自分自身の読みを持って臨むことが大前提であり、これまで学習してきたことを生かして自分の力で読み進めていくことによって読みの力の定着を図る。

低学年の学習では、それぞれの場面における登場人物の行動を中心に、想像を広げながら読んできている。それを受けて、中学年では、場面と場面とをつなげたり比べたりして、登場人物の行動を考えたり、気持ちの変化をとらえたりすることが大切である。また、登場人物の性格を叙述を基に想像して読む力も身につけていくことが必要である。

② 自分たちの力で学習課題を設定する。

学びの主体である子供が、自分たちの力で学習材から課題を設定することで、子供に自分たちが学びの主体者であるという意識を持たせることができる。また、自分たちの力で学習計画を立てることは、見通しを持って学習に取り組んだり、問題解決能力を育んだりするのに有効である。本単元では、自分の読みを小グループで交流し合って学習課題（意見交流のテーマ）をつくったり、その学習課題の解決順序を論議して考えさせたりする。

③ 学習課題に沿って互いの読みを出し合い、自分の考えを広げたり深めたりする。

学習課題に対する自分の考えを持ち、小グループや全体で意見交流することで、自分の考えや感じ方を広げたり深めたりする。ここでは、話し合いによる意見交流だけでなく、考えを読み合ったり書き合ったりする活動を取り入れることで、より多くの考え方に触れることで自分の考えを広げさせていく。また、意見交流の際は、子供が主体となって意見交流を進めていくが、教師は、事前対話・即時対話・事後対話や、ノートへのコメントで意見交流の質的活性化を図る。

④ 自分の読みを振り返り、相互に読み合ったあとに、加筆修正する。

意見交流を通して、自分の考えや感じ方がどのように変容したのかを振り返る。理解を定着させるためには、自らの学びの振り返りが欠かせない。また、振り返りをするのが次への見通しも作り出す。本単元では、自分の読みを相互に読み合う時間を設け、そのあとに加筆修正させる。書き足すときは、青鉛筆で記述し、自分の考えの変容や深まりが一目で分かるようにさせる。これは、自己評価能力の向上にもつながる。

⑤ 他の関連する作品に興味を持ち、自分たちで読み進める。

斎藤隆介の言葉に、「人間の素晴らしい行動の底には、やさしさこそが金の発動機（モーター）になっている」とある。斎藤隆介の作品の根底に流れているこの共通する作者の思

いである。本単元では、これまでの学習を活用して、斎藤隆介の作品を多読し、お気に入りの1冊を見つけて同好の友達同士でブック・チームを組み、自分の考えや感想を伝え合ったりしていく。この活動を通して、考え方や感じ方を伝え合う楽しさを感じたり、作者の世界観を感じたりすることで、個の読書生活を豊かにすることをねらう。

上記のような活動を通し、子供が主体的に学習を進めていくことで、次の姿を期待したい。

- ・ 文学作品の味わい方を学ぶことで、個の読書生活を豊かにすること。
- ・ 同じ作品を読んでも人によって受け止め方や感じ方に違いがあることを知り、これを進んで求めていくことが自分自身を豊かにすること。

(3) 学習材について

臆病な豆太が、勇気のある子供しか見ることのできないと言い伝えられている「モチモチの木」の灯を見ることのできた物語である。豆太は、物語の冒頭で、夜中に一人でせっちん（トイレ）にも行けない臆病者として紹介されている。それが、病気のじさまを助けたい一心で、真夜中に裸足で、医者を呼びに山を駆け下りる。冒頭の豆太とは、対照的な姿である。

子供は、このような豆太の姿に共感しながら読み、各場面を比べながら豆太のやさしさから表出した勇気ある行動に心を寄せるであろう。そして、このような豆太だからこそ「モチモチの木」の灯を見ることができたのだと感じるであろう。

また、本学習材は、登場人物の言動を手がかりにしながら、気持ちの移り変わりや性格を読み取るのに適している。さらに、場面における出来事が明確で、場面の移り変わりも把握しやすいので、それぞれの場面における登場人物の様子や気持ちも読み深めることができるし、場面と場面とを比較しながら登場人物の人柄や変容を理解するのに効果的な作品であるといえる。

5 指導計画（14時間）

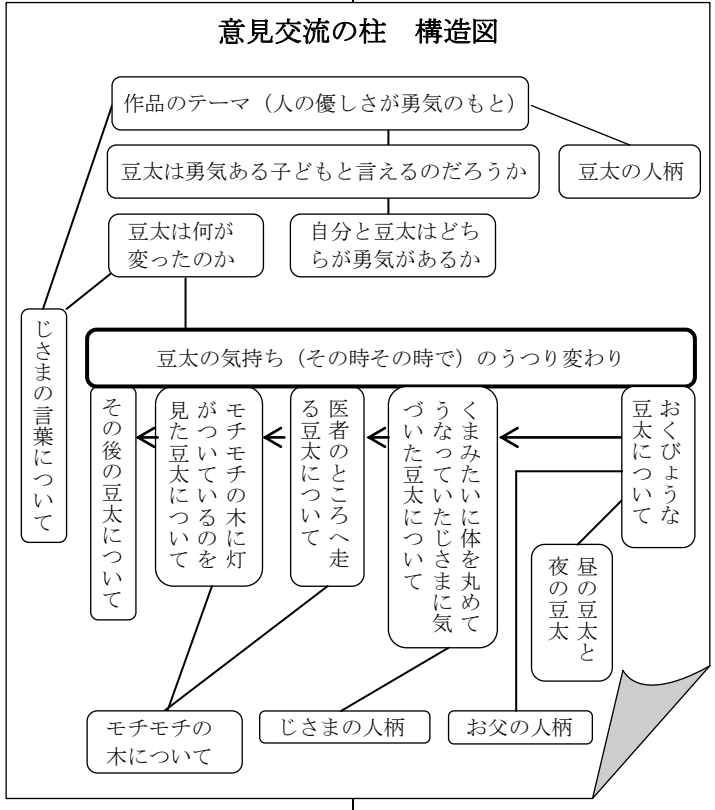
次	時	学習活動	指導事項	◆評価 ☆支援
第一 次	①	1 「モチモチの木」と出会う。 ・ 単元のめあてを知る。 ・ 「モチモチの木」の読み聞かせを聞き、斎藤隆介作品に興味をもつ。	・ 単元のめあてを持つこと。	☆ 学級全体で物語を読むことの意義を子供と話し合うことで、単元のめあてを持たせる。 ☆ 「モチモチの木」という作品名から、どのような話なのかを予想させることで、作品に対する興味を持たせる。
		2 学習計画を立てる。 ・ みんなで学習したいことをノートに書く。 ・ 学習したいことを出し合い、順序を考える。	・ 単元のめあてに沿って学習計画を立てること。	☆ ビック絵本で読み聞かせをしたり、教室に斎藤隆介の作品を多数用意したりすることで、斎藤隆介作品に自然と興味を持たせていく。 ◆ 単元のめあてを考え、めあてにそって学習計画を考えようとしている。 [関・意・態]
	② ③ ④	3 登場人物の相関と作品の組み立てを読み取る。 ・ 登場人物の相関図を作る。 ・ 作品の組み立てを読み取る。 ・ 場面の様子を読み取る。 ・ 作品全体の面白さを読み取る。	・ 登場人物の相関図を作り、豆太を中心とした登場人物同士のかかわりを読み取ること。 ・ 各場面の組み立てをノートにまとめ、時や場所、出来事を登場人物同士のかかわりと関係づけて読み取り、豆太の心情変化を読み取ること。	◆ 作品の組み立て、場面の様子、面白さなどを人物の相関と関係づけながら読み進めている。 [読む] ◆ 豆太やじさまの心情変化や情景描写など、登場人物の気持ちや様子を表す言葉や文に気付いている。 [言語] ☆ 読み取りが進まない子供には、既習事項である読みの6観点を想起させたり、豆太の言動が分かる叙述に着目させたりする。

	⑤	<p>4 意見交流のテーマを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 意見交流したいことをノートに書く。 意見交流のテーマを精選し、交流する順序を決める。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元のめあてや読みの6観点を理解し、これを基に意見交流のテーマを考えること。 意見交流のテーマ同士の関連を考えて、交流の順序を決めること。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 単元のめあてと読みの6観点を基に、意見交流のテーマと交流する順序を考えている。 [読む] ☆ 意見交流のテーマを精選する場面では、グルーピングの仕方を紹介したり、テーマ同士の関連を考えさせたりする。
第二次	① ② ③ ④ 本時 ⑤	<p>1 意見交流のテーマに沿って学習活動を進めることで、たくさんの友達の考えを知り、自分の考えを広げたり深めたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 意見交流のテーマに対する自分の考えを書く。 少人数グループや学級全体で話し合ったり読み合ったりしながら考えを交流する。 振り返りとして、意見交流を通して深まったり広がったりした自分の考えをまとめる。 振り返りを子供同士で読み合い、自分の考えに加筆修正をする。 <p>意見交流の順序</p> <ul style="list-style-type: none"> 豆太は勇気があるといえるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 意見交流のテーマに対して、主張・根拠・理由を明確にして自分の考えを書くこと。 意見交流のテーマに対する自分の考えを持って交流していく中で、一人一人の考え方の共通点や相違点に気づくこと。 「豆太のモチモチの木に対する態度」や「モチモチの木を見ることができた理由」などを各場面の様子と照らし合わせて読み取り、自分の読みを持って意見交流する中で、意見交流の大きな柱である「豆太は勇気ある子供といえるのか」について自分の考えを深めていくこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 叙述を基に自分の考えを書いている。[読む] ◆ 学習活動に主体的にかかわり、進んで多様な考えを求めようとしている。[読む] ◆ 意見交流を通して、自分の考えを広げたり深めたりしている。[読む] ☆ 意見交流の前に自分の考えを持つ時間を保証する。 ☆ 意見交流は児童主体で行うが、交流の質的活性化のために、事前対話で論点を明確したり、即時対話で葛藤や軌道修正をさせたり、事後対話で成果と課題を明確にさせたりする。

- ・ 4人（豆太、じさま、おとう、医者様）の人物像について。
- ・ 自分なら一人でふもとの村まで行けるか。
- ・ 本当に山の神様のお祭りなのか。
- ・ 豆太は勇気がある子供といえるのか。
- ・ 筆者が伝えたかったことは何か。

- ・ 意見交流を通して自分の考えがどのように変わったり深まったりしたのか、相手意識を持って振り返りを書くこと。

- ☆ 学級全体での話合いにおける交流だけでなく、少人数での交流や書くことでの交流を取り入れ、自分の考えを広げたり深めたり、確かなものにできるようにする。
- ☆ 交流への参加が難しい子供がいた場合は、友達のを参考にさせたり、豆太の言動と自分を照らし合わせたりさせることで、参加を促す。
- ☆ 毎時間の交流を確かな学びとしていくため、また、自己評価能力を育むために、毎時間、振り返りの時間を保証し、自分だけでなく友達と振り返りを読み合ったあとに加筆修正をする活動を取り入れる。
- ☆ 個の学習状況を把握し、交流を通して更に深めていくことができるように、ノートを集めコメントを書く。



第三次

- 1 斎藤隆介の作品を多読する。
- ・ ブック・チームで語り合うための下地となる多読の仕方を知る。
 - ・ お気に入りの一冊を選んで、自分の読みをつくる。

- ・ ブック・チームを作って同じ作品を読み合う手法を知ること。
- ・ 特に気になった部分や友達の考えを聞いてみたいところには、付箋紙にメモをしておき、

- ◆ 進んで他の斎藤隆介作品を読もうとしている。 [関・意・態]
- ☆ 進んで他の作品を読み進められない子供がいた場合は、ブックリストを参考にさせたり、

		該当するページに貼っておくこと。	作品の内容を紹介したりして、興味を持つことができるようにする。
④	<p>2 ブック・チームを作り、互いの読みを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 同じ作品を選んだ者同士でブック・チームを作る。 ・ 互いの読みを交流する。 ・ 学習感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ブック・チームを作って語り合うことを理解し、第1次と第2次で学習した読み取り方や読みの交流の進め方を活用して互いの読みを交流すること。 	<p>◆ 自分の読みを持った上で、進んで友達の考えを求め、一人一人の感じ方の共通点や相違点に気づいている。 [読む]</p> <p>☆ 各チームの意見交流が質的に活性化するように、それぞれの作品の内容の大体と意見交流の論点になりそうなものを把握しておき、交流時に支援できるようにしておく。</p>

6 本時の目標

- ◎ 主体的な意見交流を通して、多様な考え方や感じ方を進んで求め、自身の考えを深めたり広げたりすることができる。

7 本時の展開 (9 / 14)

学習活動	指導事項	◆評価 () 評価方法 ☆支援
1 前時の活動を振り返り、本時の学習課題を知る。 ・ 本時の意見交流に生かしていけるように、前時の活動を振り返り、成果と課題を認識する。	・ 前時の交流を振り返り、成果と課題をもとに本時の交流の見通しを持つこと。	☆ 教師の事前対話で、前時の成果と課題を振り返り、本時の課題を明確にさせる。
豆太は勇気ある子供といえるのか		
2 本時の意見交流のテーマについて考えを交流をする。 ・ ノートに書いた友達の考えを読み合う。 ・ 気になった考えの友達と交流する。 ・ 学級全体で話し合って交流する。	・ 豆太の人物像について、場面の様子や人物同士のかかわりと照らし合わせながら、本文を根拠にして自分の考えを持ち、理由を述べること。 ・ 友達の考えと自分の考えを比べながら聞き、一人一人の考え方の共通点や相違点に気づき、自分の考えや感じ方を広げたり深めたりすること。	☆ 自分の考えが明確にもてていない児童には、ノート交流の時に友達の考えを参考にするように声をかける。 ☆ 論点がずれたり、深まりが見られなかったりする時は、教師の即時対話で修正し、話合いの質的活性化を図る。 ◆ 学習活動に主体的にかかわり、進んで多様な考えを求めようとしている。(発言、ノート)
「具体的な児童の姿」および支援		
A 豆太がどのような子供であるかの理由を、本文の叙述(豆太の人物像、他の登場人物とのかかわり、場面の様子)を基に考えている。 ☆ 考え方の違いに着目させ、友達の発言につなげたり質問したりさせる。	B 豆太がどのような子供であるかの理由を、豆太の人物像、他の登場人物とのかかわり、場面の様子のいずれかを基に考えている。 ☆ 他の観点でも考えさせる。	Bに満たない 豆太がどのような子供であるかの理由を、本文の叙述を無視して空想だけで考えている。 ☆ 豆太の人物像を場面の様子や出来事と関連して考えさせる。
3 本時の学習を振り返る。 ・ テーマに対する自分の考えが、意見交流を通してどのように変わったのかが分かるように、自分の考えを書く。 ・ 自分の考えが書き終わったら、友達の考えを読み、共感することがあれば加筆修正する。	・ 本時の学習を振り返り、意見交流を通して自分の考えがどのように変わったのかを相手意識を持って書くこと。 ・ 次時以降の活動に見通しを持つこと。	☆ 振り返りが進まない児童には、本時で交流した内容で心に残ったことを想起できるように声をかける。 ☆ 本時や次時以降の活動がさらに深まるように、ノートを集めコメントを書いておく。 ◆ 意見交流を通して、自分の考えを広げたり深めたりしている。(ノート)

8 資料

(1) 斎藤隆介作品一覧

No.	分類	書名(シリーズ名)	著者名	出版社	出版年
1	石神井図書館	かまくら	斎藤隆介作 赤坂三好絵	講談社	1972年
2	E-た	かみなりむすめ	斎藤隆介作 滝平二郎絵	岩崎書店	1989年
3	石神井図書館	かみなりむすめ	斎藤隆介作 滝平二郎絵	岩崎書店	1989年
4	E-た	三コ	斎藤隆介作 滝平二郎画	福音館書店	1969年
5	E-た	三コ	斎藤隆介作 滝平二郎画	福音館書店	1969年
6	E-た	ソメコとオニ	斎藤隆介作 滝平二郎絵	岩崎書店	1987年
7	石神井図書館	ソメコとオニ	斎藤隆介作 滝平二郎絵	岩崎書店	1987年
8	石神井図書館	立ってみなさい	斎藤隆介著 滝平二郎絵	新日本出版社	1969年
9	913-さ	ちょうちん屋ままつ子	斎藤隆介作 滝平二郎絵	理論社	1975年
10	913-さ	ちょうちん屋ままつ子(理論社名作の愛蔵版)	斎藤隆介作 滝平二郎絵	理論社	1988年
11	石神井図書館	でえだらぼう	斎藤隆介作 新居光治画	創風社	1996年
12	石神井図書館	天に花咲け	斎藤隆介文 滝平二郎絵	新日本出版社	1981年
13	913-さ	天の赤馬	斎藤隆介文 滝平二郎画	岩崎書店	1977年
14	石神井図書館	天の笛	斎藤隆介作 藤城清治絵	佼成出版社	1984年
15	石神井図書館	猫山	斎藤隆介作 滝平二郎絵	岩崎書店	1983年
16	石神井図書館	猫山	斎藤隆介作 滝平二郎絵	岩崎書店	1983年
17	E-た	八郎	斎藤隆介作 滝平二郎画	福音館書店	1967年
18	E-た	八郎	斎藤隆介作 滝平二郎画	福音館書店	1967年
19	E-た	花さき山	斎藤隆介作 滝平二郎絵	岩崎書店	1969年
20	石神井図書館	花さき山	斎藤隆介作 滝平二郎絵	岩崎書店	1969年
21	石神井図書館	半日村	斎藤隆介作 滝平二郎絵	岩崎書店	1980年
22	石神井図書館	半日村	斎藤隆介作 滝平二郎絵	岩崎書店	1980年

23	石神井図書館	火	斎藤隆介作 箕田源二郎絵	岩崎書店	1975年
24	石神井図書館	ひさの星	斎藤隆介作 岩崎ちひろ絵	岩崎書店	1972年
25	石神井図書館	ひとりの正月	斎藤隆介作 久米宏一絵	佼成出版社	1979年
26	石神井図書館	火の鳥	斎藤隆介作 滝平二郎絵	岩崎書店	1982年
27	石神井図書館	火の鳥	斎藤隆介作 滝平二郎絵	岩崎書店	1982年
28	石神井図書館	ひばりの矢	斎藤隆介作 滝平二郎絵	岩崎書店	1985年
29	石神井図書館	ひばりの矢	斎藤隆介作 滝平二郎絵	岩崎書店	1985年
30	石神井図書館	火を噴く山	斎藤隆介さく 斎藤博之え	新日本出版社	1977年
31	石神井図書館	ふき	斎藤隆介作 滝平二郎絵	岩崎書店	1998年
32	石神井図書館	ふき	斎藤隆介作 滝平二郎絵	岩崎書店	1998年
33	石神井図書館	冬の夜ばなし	斎藤隆介文 滝平二郎絵	新日本出版社	1977年
34	913-さ	ペロ出しチョンマ	斎藤隆介作 滝平二郎絵	理論社	1987年
35	石神井図書館	ペロ出しチョンマ(新・名作 の愛蔵版)	斎藤隆介作 滝平二郎絵	理論社	2000年
36	石神井図書館	まけうさぎ	斎藤隆介さく まつやまふみおえ	新日本出版社	1971年
37	E-た	モチモチの木	斎藤隆介作 滝平二郎絵	岩崎書店	1971年
38	石神井図書館	モチモチの木	斎藤隆介作 滝平二郎絵	岩崎書店	1971年
39	石神井図書館	モチモチの木	斎藤隆介作 滝平二郎絵	岩崎書店	1971年
40	石神井図書館	モチモチの木(新・名作の愛 蔵版)	斎藤隆介作 滝平二郎絵	理論社	2001年
41	石神井図書館	モチモチの木(新・名作の愛 蔵版)	斎藤隆介作 滝平二郎絵	理論社	2001年
42	913-さ	ゆき	斎藤隆介作 滝平二郎絵	講談社	1976年
43	石神井図書館	ユとムとヒ	斎藤隆介作 滝平二郎絵	岩崎書店	1986年
44	石神井図書館	ユとムとヒ	斎藤隆介作 滝平二郎絵	岩崎書店	1986年